単元名：食の自給率を考える

科目名	韓国語	作成日	–	作成者	プロジェクトメンバー
学年／年次	–	クラス人数	–	使用教科書と課	–
話題分野	食	言語レベル	4	必要時間数	8時間

Ⅰ単元目標

食料の輸入が問題になっている状況のなか、フードマイレージの理念を理解し、ある献立のマイレージを日韓で比較しながら、両国の食糧自給問題について考えることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる	☺	☺	☺	☺	☺	☺
できる	☺	☺	☺			
つながる	☺		☺			

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
◆インターネット上の韓国関連資料を見て理解することができる。 ◆調べた結果を踏まえ、発表資料をつくり、プレゼンをすることができる。 ◆クラスメイトの発表を聞いて理解することができる。 ◆食糧自給率の現状や今後の展望について、クラスメイトの間で話したり、インターネット上でやりとりをすることができる。 ◆関係機関に韓国語で文章を書き、自給率向上のためのとりくみについて自分なりの意見を表明することができる。	◆食材と産地の気候や地理的特徴、歴史との関連性を比較して、食材が気候や地理的、文化的条件に深く関係していることを理解することができる。 ◆日本の食材について、国内の代表的な生産地を理解し、日本人と食材と地域との関連性を説明することができる。 ◆同じ食材でも国や地域によって扱われ方が違うことを理解する。 その原因についても推察することができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。	◆韓国と米国の農作物の輸出入問題が日本と同様であることに気づき、どのような関係が望ましいか話し合うことができる。（知識理解） ◆情報リテラシーやメディアを使って、食材の産地や自給率などを効果的に調べることができる。（情報活用） ◆日韓の食糧自給事情を比較し、日本のほうがフードマイレージが多い原因を考察することができる。（高度思考） ◆世界の食糧事情を理解し、フードマイレージを減らすための工夫を考えることができる。（高度思考） ◆食糧問題解決の方法を考え、食料自給率を上げるために、諸機関に働きかける。（社会貢献） ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。

コミュニケーション能力指標	【食】 4-a. 地域・季節などによって多様な韓国料理に関する資料を、インターネットなどで調べ、それぞれの特徴について、レポートにまとめることができる。 4-b. 現代の若者の食生活について読んだり聞いたりして、その内容について、口頭でまたはメールや手紙などを使って意見交換できる。 4-c. 世界の食文化や食糧の問題についての新聞や雑誌の記事を読み、そのことについての意見を口頭で発表できる。 ★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している

Ⅲ　学習活動と評価

プレコミュニカティブ活動　（語彙・表現習得活動）	学習を助けるための評価　（形成的評価）
◆自分の好きなお菓子や果物を持ち寄って、その原産地を確かめてみる。【4-b】 ◆韓国で伝統的に食べられてきた料理を1つ例にとり、そのメニューに使われている食材の主な生産地をインターネットなどで調べる。その結果を大きな白地図にみんなで書き込んで、韓国の「産地地図」を作る。書き込まれた結果と自分の考察を加え、韓国の食生活を簡単に紹介する文章をまとめてみる。【4-a】 ◆韓国の若者に人気のある料理のランキングを見て、人気の傾向や理由について、日本と比べあいながら意見をいいあう。【4-b】 ◆日本と韓国の代表的な食材を取り出し、その食材の自給率を調べてみる。輸入している場合には主な輸入国を調べて発表する。【4-c】 ◆食糧を輸入すべきか、国産を進んで使うべきか、双方に分かれてミニディベートをする。【4-c】 ★【　】内は対応するコミュニケーション能力指標	◆自分が普段食べているメニュー（食材や自給率、フードマイレージなど）について視覚化した資料を作成し発表する。（情報活用、簡潔さ、資料と発表の明瞭さ、必要な内容など） ◆韓国の平均的な4人家族の食卓のフードマイレージを計算し、日本と比較して意見を言う。（比較考察力、態度、流暢さなど）

コミュニカティブ活動　（学習シナリオ）

＜場面状況＞

M大学の韓国語のクラスでは、日本では最近食糧の輸入について問題になっているが、となりの韓国ではどうなっているのか比べてみようということになった。

＜活動の流れ＞

4人家族の夕食の食卓を想像し、自分たちで献立を考えてみる。そのメニューに使われる食材について、主な産地と自給率をインターネットや資料で調べ、フードマイレージを計算してみる。韓国についても標準的な4人家族の夕食のメニューを調べてフードマイレージを計算してその数値を先の日本の場合と比較してみる。

なぜ日本で食糧自給率が低いのかの原因を調べ、食べ残しや売れ残った物はどのように処分や再利用がされているのか、さらに、食の自給率をあげるために自分たちには何ができるかを考え、調査結果も含んだ視覚化された発表資料を作成する。韓国では国産奨励に関する運動や意見はないのか、あるとすればどんな取り組みがなされているのかを調べ、日韓双方の現状を調べ、よりよい取り組みの方法を話しあう。

これらの実験と話し合いの結果をまとめ、意見や感想をそえた手紙を韓国と日本の関係機関に送る。

ヒント☞

◆フードマイレージの問題に取り組む先進国の例を研究し、日本と韓国の現実にあった取り組みを考える。

＜目標達成度を測る全体的評価（総括的評価）＞

◆日本の食糧自給率を上げるための提案を含んだ資料が作成し発表する（内容の正確さと豊富さ、資料の見やすさ、創造性、発表の流暢さと説得力、態度、情報活用能力など）

◆日韓双方の食糧問題と解決方法をについての意見を交換する。（論理性、態度、創造性、問題の理解度、流暢さ、説得力など）

◆フードマイレージの関係機関に意見をそえた手紙を書く。（論理性、態度、表記の正確さ、社会的関心度など）

＜使用教材・教具＞

好きなお菓子、日本と韓国の食材、韓国の伝統的な食べもの（トック、松餅など）、白地図、韓国の若者に人気のある韓国料理ランキング資料、献立の参考用料理本、フードマイレージが明記された食材（教材用）カード、模造紙,フードマイレージ関連機関の連絡先・資料

教室外（人・モノ・情報）との連繋	他教科の内容との連繋
第1次産業、運輸、JETRO、フードマイレージ教材化研究会（実例 http://www.kcfca.or.jp/jigyou/kyouiku/tool/fm-kyozai01.htmlなど）、韓国の関連機関（協会や研究所、農林水産食品部の民願センターなど）	地理(原産地、輸送経路)、現代社会(貿易、経済、政治)、家庭科（食材、料理）